アーケオプテリクス（始祖鳥）

全身が羽毛でおおわれ、前あし、後ろあしに翼があり、尾にも羽がありました。いっぽうで、口には歯があり、前あしは翼になっているが長い３本の指がある、長い尾の骨があるなどの、いまの鳥にはない特徴を残しています。

●竜盤類　獣脚類　鳥類●50cm●ドイツ（ゾルンホーフェン石灰岩層など）

アーケロン

史上最大のカメのなかまです。現在のカメのような甲らはなく、骨のあいだのすきまをかたい皮ふでおおうようなつくりになっていたと考えられます。

●は虫類●４m●アメリカ（ピエールシェール層）

アキロバーター

ドロマエオサウルスのなかまとしては大型で、ユタラプトルとならんで最大級の種類です。後ろあしに大きなかぎづめをもつことから、アキレス腱が発達していたとイメージされてこの名前がつきました。

●竜盤類　獣脚類●６m●モンゴル（バインシレ層）

アルゼンチノサウルス

ティタノサウルスのなかまです。見つかっている背骨や後ろあしの骨などの化石から、史上最大級の恐竜だったと考えられています。背骨は、高さ1.6mもあります。

●竜盤類　竜脚形類●35～40m●アルゼンチン（ウィンクル層）

アルバートサウルス

ティラノサウルスより少し前の時代にいました。子どもをふくむ少なくとも12体の化石がいっしょに見つかっており、群れでくらし、狩りをおこなっていたと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●９m●カナダ（ホースシューキャニオン層）

アンキオルニス

始祖鳥よりも少し古い時代にいた、小型の恐竜です。全身に羽毛があり、前あしと後ろあしに大きな翼をもっていました。トカゲや魚を食べていたことがわかっています。

●竜盤類　獣脚類●34cm●中国（髫髻山層）

イー

長い前あしにある長い指と、ムササビと同じように、手首からのびる長い突起があることから、前あしとからだのあいだに飛ぶための皮膜をもっていたことがわかりました。からだには羽毛がありました。木に登って滑空していたかもしれません。

●竜盤類　獣脚類●60cm●中国（髫髻山層）

イグアノドン

世界で２番目に名前がつけられた恐竜です。前あしの親指は、ほぼ全体がするどくとがった骨でできていました。小指は曲げることができて、ものをつかむのに役立ったと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●10m●イギリス（タンブリッジウェルズ砂層など）、ベルギー（サントバルベ粘土層）など

イクチオルニス

ハトくらいの大きさの原始的な鳥です。原始的な獣脚類恐竜と現在の鳥に似た特徴をもついっぽう、獣脚類のように歯をもっていました。

●竜盤類　獣脚類　鳥類●30cm●アメリカ（ニオブララ層など）、メキシコ

イリテーター

化石が人工的につくりかえられていたと知った科学者の感情が、名前の由来です。スピノサウルスのなかまで、おもに水辺で魚を食べていたと考えられていますが、イリテーターのものと思われる歯がくいこんだ翼竜の化石も見つかっています。

●竜盤類　獣脚類●８m●ブラジル（サンタナ層）

インロン

もっとも原始的な角竜類のなかまで、２足歩行をしていたと考えられています。後頭部はぼこぼことも盛り上がっていて、口先はくちばしのようにとがり、えんぴつのような歯もありました。おなかからは胃石が見つかっています。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●1.2m●中国（石樹溝層）

ウエルホサウルス

もっとも新しい時代まで生きていたステゴサウルスのなかまです。背中には長方形に近い形の骨の板がならんでいました。

●鳥盤類　装盾類　剣竜類●６m●中国（連木沁層）

ヴェロキラプトル

後ろあしに大きくするどいかぎづめをもつ、ドロマエオサウルスのなかまです。すばやい動きで植物食恐竜におそいかかるハンターでした。前あしの化石に翼がついていたと考えられるあとが見つかっています。

●竜盤類　獣脚類●1.8m●モンゴル（ジャドフタ層など）、中国（バヤンマンダフ層など）

エウオプロケファルス

がんじょうなよろいのような骨に加え、尾には大きな骨のかたまりがあります。アンキロサウルスのなかまのなかでもとくに多くの化石が発見されており、研究が進んでいます。群れはつくらず、単独でくらしていたようです。

●鳥盤類　装盾類　よろい竜類●６m●カナダ（ダイナソーパーク層など）、アメリカ（トゥーメディスン層など）

エウスケロサウルス

アフリカで最初に発見された恐竜です。４足歩行の原始的な竜脚形類のなかまです。歩くときは両あしをがにまたにして歩いていたと考えられています。

●竜盤類　竜脚形類●10m●南アフリカ（エリオット層）

エウロパサウルス

ブラキオサウルスのなかまの小型の竜脚類です。1.7mの子どもから、6.2mのおとなまで、11体の化石が発見されています。

●竜盤類　竜脚形類●6.2m●ドイツ（ズンテル層）

エオドロマエウス

原始的な獣脚類のなかまの恐竜です。首や腰の骨に、恐竜ならではの特徴があります。また、歯はカーブしていて、ふちに細かいギザギザがあることなどから、肉食であることがわかりました。

●竜盤類　獣脚類●1.2m●アルゼンチン（イスチグアラスト層）

エドモントサウルス

大型のハドロサウルスのなかまで、状態のよい化石が数多く見つかっています。頭部には骨でできたとさかはありませんが、肉でできたとさかがあったと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●13m●カナダ（ホースシューキャニオン層など）、アメリカ（ヘルクリーク層など）

エラフロサウルス

リムサウルスに近いなかまの恐竜です。ほっそりとしたからだで、長い首、長い尾をもち、速く走ることができたと考えられています。頭の化石は見つかっておらず、なにを食べていたかはわかっていません。

●竜盤類　獣脚類●6.2m●タンザニア（テンダグル層）

オウラノサウルス

イグアノドンのなかまです。背中から尾まで骨の突起が上にのびていて、帆のようになっていたと考えられています。頭は細長く、口先はカモのように平らなくちばしになっていました。

●鳥盤類　鳥脚類●７m●ニジェール（エルハス層）

オメイサウルス

とても長い首をもつ竜脚類です。首の骨は17個ありました。スプーン形の歯で高い木の葉を食べていたと考えられます。尾の先には小さなこんぼう状のかたまりがありました。

●竜盤類　竜脚形類●10～15m●中国（沙渓廟層など）

オルニトミムス

尾があることをのぞいて、からだ全体のつくりがダチョウに似ています。後ろあしのひざ下が長く、とても速く走ることができたようです。保存状態のよい標本にはケラチン質のくちばしが残っているものもあります。

●竜盤類　獣脚類●3.8～4.8m●アメリカ（デンバー層など）、カナダ（ホースシューキャニオン層など）

オロドロメウス

小型の鳥盤類です。山岳地帯にすみ、長い後ろあしで、速く走れたと考えられています。おとなの化石といっしょに卵や子どもの化石も見つかりましたが、その卵は、いまでは獣脚類のトロオドンのものと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●2.5m●アメリカ（トゥーメディスン層など）

オロロティタン

大きなとさかが特徴です。ほかのハドロサウルスのなかまとくらべて、長い首をもっていました。オロロティタンに近い恐竜が北アメリカにわたり、パラサウロロフスやコリトサウルスなどに進化したと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●12m●ロシア（ウドゥルチュカン層）

カーン

オヴィラプトルのなかまです。ほぼ完全な骨格が２体いっしょに見つかっており、「ロミオとジュリエット」という愛称がつけられています。

●竜盤類　獣脚類●1.8m●モンゴル（ジャドフタ層）

カウディプテリクス

オヴィラプトルのなかまで、短い前あしには翼のような羽がありました。尾の先にはおうぎ形に羽が生え、これはオスがメスをひきつけるためのものと考えられています。腹部から、食べた植物をすりつぶすための胃石が見つかっています。

●竜盤類　獣脚類●１m●中国（義県層）

カスモサウルス

目の上の角は短めです。学名は、フリルの骨に２つの大きなあながあいていることからつけられました。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●６m●カナダ（ダイナソーパーク層など）

カマラサウルス

首や尾は短めで、前あしと後ろあしがほぼ同じ長さのため、背中は水平になっていました。頭は大きく、頭骨の鼻のあたりには空洞があります。あごには大きなスプーン形の歯が生えていました。

●竜盤類　竜脚形類●18m●アメリカ（モリソン層）

カムイサウルス

2003年に一部の化石が発見されてから、長い時間をへて全身の化石が発掘されました。発掘された化石は、調査の結果、ハドロサウルスのなかまであることがわかりました。頭の骨に残るあとから、とさかがあった可能性が指摘されています。

●鳥盤類　鳥脚類●８m●日本（北海道・蝦夷層群函淵層）

ギガントラプトル

オヴィラプトルのなかまとしては最大で、背の高さは3.5mにもなります。小さな頭にかたいくちばしをそなえ、前あしには大きなかぎづめをもっていました。

●竜盤類　獣脚類●８m●中国（イレンダバス層）

キノグナトゥス

三畳紀の前期から中期の、ほ乳類に近い生き物です。大きなあごには、発達したするどい歯があり、危険な肉食動物でした。

●獣弓類●1.5～2.5m●南アフリカ（バーガーズドープ層）、ナミビア（オミンゴンデ層）、アルゼンチン、南極など

ギラファティタン

同じジュラ紀後期に北アメリカにいたブラキオサウルスの一種と考えられていました。首をもち上げると、高さは10mをこえます。

●竜盤類　竜脚形類●23m●タンザニア（テンダグル層）

クンバラサウルス

アンキロサウルスのなかまです。頭や背中、腹など、多くの部位が骨のよろいに守られていました。胃の内容物から、植物の葉や果実を食べていたことがわかっています。

●鳥盤類　装盾類　よろい竜類●３m●オーストラリア（トゥールバック層）

コエロフィシス

前あしに４本目の指のなごりがあるなど、原始的な恐竜の特徴をもっています。ほっそりとしたからだで走るのが速く、小さいえものをつかまえて食べていたと考えられます。

●竜盤類　獣脚類●３m●アメリカ（チンル層など）

サウロファガナックス

ジュラ紀最大級の獣脚類です。アロサウルスだと考えられていましたが、背中の骨に少しちがいが発見されました。

●竜盤類　獣脚類●12m●アメリカ（モリソン層）

サウロペルタ

ノドサウルスのなかまです。背中全体のよろいが保存されている標本などが見つかっており、よろいのことがよくわかっている恐竜です。からだは骨のよろいでおおわれていて、首の左右には大きなとげが生えていました。

●鳥盤類　装盾類　よろい竜類●６～７m●アメリカ（クローバリー層など）

サウロポセイドン

白亜紀の北アメリカでは、最大級の恐竜でした。長さが最大1.4mにもなる首の骨が４つ見つかっていて、首の長さは12mにおよんだと考えられています。

●竜盤類　竜脚形類●28m●アメリカ（アントラーズ層など）

サウロロフス

ハドロサウルスのなかまです。名前にもあるとさかは、目の上から頭の後ろまでのびています。もともとアジアにくらしていて、地続きになっていた北アメリカにわたってきたと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●９～12m●カナダ（ホースシューキャニオン層など）、モンゴル（ネメグト層）

ザナバザール

トロオドンのなかまです。サウロルニトイデスのなかまとされていた化石が、再研究によって別の種類だとみとめられました。頭骨は20cmほどの長さで、脳はトロオドンにくらべると小さかったようです。

●竜盤類　獣脚類●１m●モンゴル（ネメグト層）

シアッツ

比較的大型のアロサウルスのなかまです。2013年に発表され、この恐竜の発見によりアロサウルスのなかまが、白亜紀後期までいたことがわかりました。

●竜盤類　獣脚類●10m●アメリカ（シダーマウンテン層）

シオングアンロン

原始的なティラノサウルスのなかまです。白亜紀後期に登場するティラノサウルスのなかまのアリオラムスに似て頭が細長いのが特徴です。

●竜盤類　獣脚類●4.5m●中国（新民堡層群）

シチパチ

オヴィラプトルのなかまで、前あしで卵をだくすがたの化石が見つかっています。現在の鳥類のように、オスとメスで役割分担をしていて、抱卵していたのはオスだったと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●2.1m●モンゴル（ジャドフタ層）

シノケラトプス

角の発達した角竜類で、北アメリカにいたセントロサウルスに近い恐竜です。鼻の上には大きな角が１本あり、フリルのまわりにも、前を向いた角が王冠のように生えていました。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●６m●中国（辛格庄層）

シノサウロプテリクス

世界で初めて見つかった、羽毛をもつ恐竜です。羽毛に残っていたメラノソームという細胞内小構造を調べた結果、尾が茶色と白のしま模様になっていたことがわかりました。

●竜盤類　獣脚類●１m●中国（義県層など）

ジョバリア

サハラ砂漠でほぼ完全な骨格が見つかっている、大きな竜脚類です。背中から首にかけての骨の空洞は、まだ小さなものでした。歯はスプーン形をしていて、高い木の葉を食べていました。

●竜盤類　竜脚形類●17m●ニジェール（ティオウラレン層）

シンラプトル

マメンチサウルスと同じジュンガル盆地から化石が見つかった、大型の肉食恐竜です。鼻から目にかけてのとさかや目の上のでっぱりは低いものでした。

●竜盤類　獣脚類●7.6m●中国（石樹溝層）

スーパーサウルス

全長30mをこえる、もっとも大きな竜脚類の１つで、ディプロドクスのなかまです。見つかっている化石は、全体の半分ほどです。推定された重さは30ｔ以上、ゾウ８頭分、人間の子どもでは1500人分にもなります。

●竜盤類　竜脚形類●33m●アメリカ（モリソン層）

スキピオニクス

コンプソグナトゥスのなかまです。見つかった化石は子どものもので、おとなになると２mほどになると推測されています。からだは羽毛でおおわれていたと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●30cm（子ども）●イタリア（ピエトラローヤ層）

スケリドサウルス

原始的な装盾類のなかまです。ほぼ完全な全身骨格が見つかっています。首から尾、さらには太ももまで、骨のよろいがありました。４本のあしでからだをささえ、くちばしと木の葉形の歯で、植物を食べていたと考えられています。

●鳥盤類　装盾類●４m●イギリス（チャーマス泥岩層など）

ステゴサウルス

背中にたがいちがいにならんだ五角形の板が特徴の、もっとも大きな剣竜類です。小さな頭でシダなどの植物を食べていました。

●鳥盤類　装盾類　剣竜類●７～９m●アメリカ（モリソン層）、ポルトガル（ロウリンニャ層）

スピノサウルス

白亜紀の中ごろに登場した、世界最大級の獣脚類です。名前どおり、背骨から長い突起がのび、高さ1.7mにもなる帆があったようです。この帆の役割には、体温調節のため、水中で姿勢をたもつため、求愛に使ったなど、さまざまな説があります。

●竜盤類　獣脚類●15m●エジプト（バハリヤ層など）、モロッコ（ケムケム層）

セケルノサウルス

南アメリカで初めて発見されたハドロサウルスのなかまです。ハドロサウルスのなかまが多い、北アメリカからわたってきたと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●４～５m●アルゼンチン（ラゴコルフェケアピ層など）

セントロサウルス

鼻の上の角が大きく、前または後ろに少し曲がっています。カナダのアルバータ州では、数千体もの化石がまとまった状態で発見される場所が複数あり、洪水の際におぼれ死んでしまったものではないかと考えられています。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●６m●カナダ（ダイナソーパーク層など）

ダケントルルス

1845年に命名された剣竜類です。尾の先についていたと思われるとげの化石が見つかっていますが、からだのようすはわかっておらず、近いなかまから推測されて復元されています。

●鳥盤類　装盾類　剣竜類●８m●イギリス（キンメリッジ粘土層など）、フランス（オクトビル粘土層）

タワ

南アメリカのヘレラサウルスと、北アメリカのコエロフィシスの、両方の特徴をもっています。原始的な獣脚類が、南から北へと移動しながら進化していったことをしめす存在として注目されています。

●竜盤類　獣脚類●２m●アメリカ（チンル層）

ティアンユーロン

ヘテロドントサウルスのなかまです。竜盤類以外で、原始的な羽毛が生えていたことが確認された、貴重な恐竜の１つです。１本ずつまっすぐで枝分かれしていないせんいのような羽毛が特徴です。

●鳥盤類●70cm●中国（髫髻山層）

デイノケイルス

2014年に全身のすがたが明らかになった、巨大なオルニトミムスのなかまです。

●竜盤類　獣脚類●11m●モンゴル（ネメグト層など）

デイノニクス

ドロマエオサウルスのなかまです。ほかのドロマエオサウルスのなかまと同じように、後ろあしの２番目の指にある大きなかぎづめが特徴です。

●竜盤類　獣脚類●3.4m●アメリカ（クローバリー層など）

ディプロドクス

長い首と尾をもつ竜脚類です。完全な骨格が見つかっている恐竜では、もっとも大きく長い恐竜の１つです。体長のわりに頭は小さく、あご先にあるえんぴつ形の歯をくしのように使って、木の枝から葉や木の実をすき取って食べていました。

●竜盤類　竜脚形類●20～35m●アメリカ（モリソン層）

ティラノサウルス

北アメリカにくらしていた最大級の肉食恐竜です。からだの大きさにくらべてとくに大きな頭には、ギザギザがついたぶ厚い歯を生やした巨大なあごがありました。全身骨格をふくめ、たくさんの化石が見つかっています。

●竜盤類　獣脚類●12～13m●アメリカ（ヘルクリーク層など）、カナダ（フレンチマン層など）

ディロフォサウルス

鼻から目の上にかけて、うすい骨でできた２枚のとさかがありました。このとさかは、オスとメスや、種類のちがいを見分けるのに使われていたかもしれないと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●６m●アメリカ（カイエンタ層）

ディロン

原始的な羽毛が見つかった、小型で原始的なティラノサウルスのなかまです。体温をたもつための羽毛だったと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●1.6～２m●中国（義県層）

テノントサウルス

原始的なイグアノドンのなかまと考えられています。からだの長さの３分の２ほどもある、とても長い尾が最大の特徴です。

●鳥盤類　鳥脚類●８m●アメリカ（クローバリー層など）

トリケラトプス

３本の角と大きな首のフリル（えりかざり）をもつ代表的な角竜類で、角竜類のなかまでは最大級の大きさをほこっています。鼻の上の角は短めですが、目の上の角の長さは約１mにもなります。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●８～９m●アメリカ（ヘルクリーク層など）、カナダ（フレンチマン層など）

トロオドン

有名な恐竜ですが、じつは歯１つに名前がつけられた恐竜で、今後名前がなくなるかもしれません。

●竜盤類　獣脚類●２m●カナダ（ダイナソーパーク層など）、アメリカ（ジュディスリバー層など）

ニジェールサウルス

レバキサウルスのなかまで、竜脚類としては比較的小型で、首は短い恐竜です。はば広の口先に、一直線にならんだ歯が特徴で、頭を下に向けて、まるでしばかり機のように地面の背の低い植物を食べていたと考えられています

●竜盤類　竜脚形類●９m●ニジェール（エルハス層）

ニッポノサウルス

原始的なランベオサウルスのなかまです。頭には小さなとさかがありました。再研究により、発見された化石は子どものものだったことがわかっており、おとなはとさかが大きかったかもしれません。

●鳥盤類　鳥脚類●４m（子ども）●ロシア（ブイコフ層）

パキケファロサウルス

堅頭竜類のなかで最大級の恐竜です。頭の骨のてっぺんが高くもり上がっているのが特徴です。頭部の化石が数多く見つかっています。

●鳥盤類　周飾頭類　堅頭竜類●4.5m●アメリカ（ヘルクリーク層など）、カナダ（スカラード層など）

パタゴプテリクス

翼はとても小さく、飛ぶことはできませんでした。パタゴプテリクスよりも原始的な鳥でも飛ぶことができる種はいたため、進化の過程で飛べないようになったと考えられています。

●竜盤類　獣脚類　鳥類●60cm●アルゼンチン（バホデラカルパ層）

ハドロサウルス

最初の化石は1838年に見つかり、世界で初めて、２本あしで直立する恐竜として骨格が組み立てられました。その後、1999年に発見された化石で頭部の形が明らかになり、いまでは４足歩行も２足歩行もできたと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●９m●アメリカ（ウッドベリー層）

ハプロケイルス

アルヴァレッツサウルスのなかまのなかで、もっとも古い恐竜です。前あしには３本の指がありました。トカゲなどの小動物を食べていたと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●２m●中国（石樹溝層）

バリオニクス

スピノサウルスのなかまです。前あしの親指に大きなかぎづめをもっています。頭の形はワニのように細長く、長い歯がたくさん生えていました。

●竜盤類　獣脚類●８m●イギリス（ウィールド粘土層など）、スペイン（ビニージャデロスモロス層など）

ハルシュカラプトル

ドロマエオサウルスのなかまです。一般的な獣脚類のように陸上を２足歩行できるような後ろあしをもついっぽう、前あしは、翼を使って水の中を泳ぐのに適した形をしており、水陸両生の恐竜だったと考えられています。

●竜盤類　獣脚類●60cm●モンゴル（ジャドフタ層）

ファソラスクス

三畳紀最大級の肉食は虫類で、恐竜をおそって食べることや、恐竜がつかまえたえものを横取りすることもあったと考えられています。先が曲がったするどい歯は15cmもありました。

●は虫類　偽鰐類●８m●アルゼンチン（ロスコロラドス層）

フクイヴェナトル

ドロマエオサウルスに近い小型の肉食恐竜で、全身の骨が見つかっています。2016年に新種としてみとめられました。首は長く、細くとがった歯とへら状の歯が生えていました。

●竜盤類　獣脚類●2.4m●日本（福井県・手取層群北谷層）

プシッタコサウルス

角やフリルはありませんが、原始的な角竜類のなかまとされています。オウムのようなくちばしをもち、植物を食べて胃石ですりつぶして消化していたと考えられています。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●１～２m●モンゴル（フレンドゥフ層など）、中国（義県層など）、ロシア

プテラノドン

とさかがついた細長い頭をもつ翼竜です。大きなものは翼を広げると９mにもなりますが、体重は約20kgとの推定もあります。おもに魚を食べていました。

●は虫類　翼竜類●翼開長７～９m●アメリカ（ニオブララ層など）

ブラキオサウルス

前あしが後ろあしより長いのが特徴で、長い首をななめ上にもち上げた姿勢をしていました。ほかの恐竜よりも、高い木の葉を食べることができました。

●竜盤類　竜脚形類●25m●アメリカ（モリソン層）

プラテオサウルス

原始的な竜脚形類のなかまです。２足歩行をして、ギザギザした歯で植物の葉を食べていたと考えられています。

●竜盤類　竜脚形類●4.8～10m●ドイツ（トロッシンゲン層など）、フランス（マルヌイリサペリア層）、スイス、グリーンランドなど

プロケラトサウルス

もっとも原始的なティラノサウルスのなかまです。最初は、とさかがあることから、ジュラ紀後期のケラトサウルスの祖先と考えられていたため、この名前がつきました。

●竜盤類　獣脚類●３m●イギリス（ホワイトライムストーン層）

プロトケラトプス

原始的な角竜類の一種で、４足歩行をしていました。角は発達していないものの、大きめのフリルをもちます。口先はオウムのようなくちばしで、歯は植物をかみ切るのに適していました。あしあとの化石も残っています。

●鳥盤類　周飾頭類　角竜類●2.5m●モンゴル（ジャドフタ層など）、中国（バヤンマンダフ層など）

ブロントサウルス

ディプロドクスのなかまです。古くから知られる竜脚類で、「かみなり竜」というよび名は、竜脚類全体をさす言葉としても使われています。頭の骨は見つかっていません。

●竜盤類　竜脚形類●21m●アメリカ（モリソン層）

ヘテロドントサウルス

原始的な鳥盤類のなかまの恐竜です。上あごに１対、下あごに１対の長いきばがあります。奥歯は木の葉形をしています。そのため、きばを武器にしていたとも、きばで植物の根を掘り、奥歯ですりつぶして食べていたとも考えられています。

●鳥盤類●1.2m●南アフリカ（エリオット層など）

ヘレラサウルス

もっとも古く原始的な竜盤類のなかまとされ、ワニに近い生き物の特徴ももっています。歯の形などから肉食と考えられ、獣脚類に分類されることもあります。

●竜盤類●３m●アルゼンチン（イスチグアラスト層）

ボレアロペルタ

ノドサウルスのなかまです。皮ふや色素細胞まで残った、きわめて保存状態のよいミイラ状の化石が見つかっています。

●鳥盤類　装盾類　よろい竜類●5.5m●カナダ（クリアウォーター層）

マイアサウラ

ハドロサウルスのなかまです。生まれたばかりの赤ちゃんや卵がある巣の化石が見つかっており、子育てをしていた恐竜だと考えられています。目と目のあいだのでっぱりが特徴です。

●鳥盤類　鳥脚類●９m●アメリカ（トゥーメディスン層など）

マメンチサウルス

アジアでもっとも大きな恐竜で、からだの半分にもなるとても長い首が特徴です。体重は最大45ｔにもなったようです。首の骨は全部で19個もありましたが、空洞があって軽いつくりになっていました。

●竜盤類　竜脚形類●22m●中国（石樹溝層など）

ミクロラプトル

ドロマエオサウルスのなかまです。４本のあしに風切羽が翼のように生えていて、木の上から滑空することができたと考えられています。全身の羽毛は黒い色ですが、光によって色が変わる特徴があり、カラスの羽のように光沢があったようです。

●竜盤類　獣脚類●80cm●中国（九仏堂層）

ミラガイア

ステゴサウルスのなかまでは、もっとも首の長い恐竜です。ふつうの剣竜類の首の骨の数が12～13個なのに対し、ミラガイアの首の骨は少なくとも17個あります。この長い首をのばして、背の高い植物を食べられたかもしれません。

●鳥盤類　装盾類　剣竜類●6.5m●ポルトガル（ロウリンニャ層）

ムッタブラサウルス

原始的なイグアノドンのなかまで、鼻のあたりに大きなふくらみがあるのが特徴です。オーストラリアで独自に進化したと考えられています。

●鳥盤類　鳥脚類●７m●オーストラリア（マクンダ層など）

メイ

トロオドンのなかまです。ねむるときの姿勢のままの、保存状態のよい化石が発見されています。この化石は、まだ子どものものでした。この化石の発見により、鳥類がねむるときと同じ習性を恐竜ももっていたことがわかりました。

●竜盤類　獣脚類●50cm（子ども）●中国（義県層）

メガラプトル

前あしの指についていた、大きなかぎづめが特徴です。１番目の指のかぎづめは35cmほどで、２・３番目の指にも、するどいかぎづめがありました。

●竜盤類　獣脚類●８m●アルゼンチン（ポルテズエロ層）

メガロサウルス

世界で最初に正式な名前がつけられた恐竜です。あごや、腰から後ろあしにかけての化石以外はほとんど見つかっておらず、くわしいすがたはわかっていません。

●竜盤類　獣脚類●９m●イギリス（テントン石灰岩層など）

ユウティラヌス

ティラノサウルスのなかまです。ほぼ完全な骨格が３体分見つかっており、大型の獣脚類として初めて、尾、あご、あしに羽毛のあとが見つかりました。頭には小さなとさかがありました。

●竜盤類　獣脚類●９m●中国（義県層）

ユタラプトル

ドロマエオサウルスのなかまとしては、最大級の種類です。前あしと後ろあしの両方に大きなかぎづめをもち、えものをおそうのに使ったと考えられています。後ろあしのかぎづめの長さは、20cm以上もあります。

●竜盤類　獣脚類●７m●アメリカ（シダーマウンテン層）

ランチョウサウルス

イグアノドンのなかまの恐竜です。長さが14cmにもなる巨大な歯が特徴で、これは植物食の恐竜としては最大の大きさです。下あごの骨も、１m以上の大きなものでした。

●鳥盤類　鳥脚類●10m●中国（河口層群）

リンウーロン

2018年に新種として記載された恐竜です。ディプロドクスにつながるグループのなかではもっとも古い種で、東アジアでは初めての発見でした。この発見により、進化した竜脚類の出現が少なくとも1500万年早まりました。

●竜盤類　竜脚形類●18m●中国（延安層）

レアリナサウラ

小型の鳥盤類です。頭骨の化石から、目が大きく、脳の視覚をつかさどる部分が発達していたことがわかりました。このことから、すぐれた視力をもっていたと考えられています。

●鳥盤類●２m●オーストラリア（エウメララ層）

レソトサウルス

原始的な鳥盤類のなかまで、下あごの先に歯はなく、くちばしになっていました。前あしは短く、歩くのには使わず、ものを持つことができたようです。

●鳥盤類●１m●レソト、南アフリカ（いずれもエリオット層）

レペノマムス

中生代のほ乳類のなかでは、からだの大きな種類です。大きなとがった前歯と、発達した下あごをもっていました。全長が１mにもなる、より大型のなかまもいました。

●ほ乳類●50cm●中国（義県層）

NOT FOR SALE　©KADOKAWA
復元画：服部雅人